



第56回

### コンプライアンス(3)

前回のコラムでは、コンプライアンス体制の確立は将来への投資であることを説明しました。今回のコラムでは、コンプライアンスとともに、近時重視されるようになった「CSR」について説明します。

CSRとは何か  
CSRとは「Corporate Social Responsibility」の頭文字を取ったもので、「企業の社会的責任」と訳されています。

このCSRという概念も、コンプライアンスと同様、欧米で発展して、我が国に流入してきたものです。

CSRが重視されるようになった社会的背景には、経済のグローバル化や社会に対する企業の影響力が大きくなったという

事情があります。

その結果として、企業には、環境問題や人権問題などの様々な社会問題に対して、積極的かつ自主的に取り組むことが求められるようになってきたのです。

このように、CSRとは、環境問題や人権問題などの社会問題に対する配慮をも含めて、企業が、その業務活動の全体を通じて、社会の構成員として果たすべき責務のことを言います。

企業は、株主を中心としたシェアホルダーだけでなく、従業員、取引先、債権者、消費者や地域住民などの様々な利害関係者(ステークホルダー)の要求にも応えなければならなくなってきたと言えます。

### 企業評価とCSR

これまで、企業の評価は収益などの財務面が重視されてきましたが、それだけでなく、環境問題や人権問題などの社会問題への対応といったCSRの側面からも企業を評価し、投資しようとする動きがあります。

これはSRI(Socially Responsible Investment)という

投資方法で、「社会的責任投資」と訳されています。

CSRを重視して活動している企業は、不祥事による経営悪化等のリスクが低く、長期的に見れば、投資対象として安全性が高いと評価されています。

このSRIも欧米で広がった投資方法ですが、日本でも関心が高まってきており、SRIに着眼した金融商品も定着してきています。投資の観点からも、CSRは重要性を増してきているのです。

コンプライアンスとCSRの関係について

コンプライアンスは、当初、「法令遵守」と理解されていましたが、その後、法令だけでなく、広く社会規範の遵守(法令等遵守)を意味するようになってきたことは、前々回のコラムで説明したとおりです。

これに対して、CSRは、法令等の遵守に止まらず、企業が社会の構成員として、環境問題や人権問題などの社会問題にも配慮した行動を取ることを求めるものです。

このように、コンプライアンスが、外部から与えられた法令等を遵守することにより、不正行為等を防止するという防衛的な側面が強いのに対して、CSRは、外部からの期待に応えるために、自ら行動していくという積極的かつ自主的な側面が強いと言えます。

したがって、企業としては、まずはコンプライアンス体制を確立したうえで、社会の期待に応えてさらなる企業価値の向上を目指して、CSRの観点を踏まえた経営を推進していく必要があります。



田中伸山  
山下江法律事務所、  
副所長、  
弁護士

広島県三原市出身。広島大学附属福山高校、一橋大学法学部卒業。平成9年司法試験合格。平成12年4月広島弁護士会入会。平成23年度広島弁護士会副会長。【主な取扱分野】企業法務、債権回収、債務整理、交通事故被害(損害賠償請求)。



山下江法律事務所  
Yamashita Ko Law Office  
広島弁護士会所属  
H25.11撮影

契約書チェック 債権回収 労務問題等  
企業法務専門サイトあります  
http://www.hiroshima-kigyoo.com



山 下 江 検索  
なやみよまるく  
フリーダイヤル  
0120-7834-09  
予約電話受付  
7~24時  
相談予約専用  
フリーダイヤル  
◆債務整理、交通事故：相談料¥0、着手金¥0-  
◆相談料：30分5,000円(税別)

機動力と総合力の広島最大級事務所！迅速な対応のための予防法務＝顧問契約をお勧めします

〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-27 上八丁堀ビル703 TEL 082-223-0695 FAX 082-223-2652 所長 山下江